

2020年度 長浜教区教化研修計画

長浜教区教化研修方針

長浜教区教化研修方針（対象年度：2015年度～2020年度）

念仏もうさるべし

－ 愚者になりて往生す －

真宗同朋会運動が始まって50年以上が経過し、その間私たちはどのように聞法に励んできたのでしょうか。そして聞法によって一体何があきらかになったのでしょうか。仏とは何か。南無阿弥陀仏とは何か。そんな素朴な問いかけに、何ひとつ応えられない私たちがいます。

聞法によって仏・法・僧の三宝を確かめ、三宝を敬う生活が、一人ひとりに実現されることを願って次の3点を基本方針とします。

1 儀式を仏事の場に還す～仏に出会う

お内仏の前やお寺での儀式、同朋唱和（正信偈、念仏、和讃）や、同朋の会でのおしゃべりは仏に出会うための門です。どうかあなた自らが門扉をたたいてみてください。

- ・同朋唱和～家庭、寺院、別院で正信偈、念仏、和讃を三世代、四世代とともに。
- ・「同朋の会」の発足、継続、充実～お寺で交流。 など

2 地域と社会の問題が縁となる～仏に訪ねる

なぜ本当に苦しいことが語れないのでしょうか。なぜ差別や社会的弱者の問題が生活の課題にならないのでしょうか。それらのことから私自身の日頃の生活の方向が問い直され、確かめられています。

- ・差別のこと（存在の平等）→ 部落、性、障害者、国籍、人種、文化……。
- ・被害を受けること（公と個の尊厳）→ 靖国、基地、原発、戦争、死刑……。
- ・おとなのこと → 介護、育児、教育、経済、後継、過疎、自死……。
- ・若者のこと → 家庭、学校、カルト、仕事、経済、結婚、自死……。 など

3 ともに歩む～仏に導かれる

日曜学校や御命日の集い、他寺院や他組への参拝、被災地支援活動を通じて世代や地域などの様々な枠組みを越えた交流を深めてみませんか。気付くことのなかった世界が、新しい生活の意義を与えてくれることでしょう。

- ・日曜学校から中高生への関わりづくり、そして成人式をお寺で。
- ・中高年世代が活躍できる場を寺院活動の中に開く。
- ・東北被災地支援活動の点検、継続。
- ・寺院・組・教区運営への女性の参画推進。
- ・教区、組、地区それぞれの教化活動における役割分担と整理。
- ・地域、宗派を越える交流。 など

教区教化委員会が提示する本方針を、各組教化委員会・各寺院で受けとめ、確かめ、伝えることを協議する場として、組教化委員会定例会、所属諸団体会議、寺院月例役員会、寺院同朋の会等を開催し、事業内容に反映し充実させていただくことを望みます。

＜ 教化研修方針対象年度 6年度間 ＞

- ・2015～2017年度 教区・両別院御遠忌お待ち受け推進期間
(お待ち受け教化事業には従前の教区教化事業も含めて推進します)

・2018年度 教区・両別院御遠忌厳修年度

・2019～2020年度 教区・両別院御遠忌の点検と総括期間

※その後2023年には宗祖御誕生850年・立教開宗800年を迎えます。

教区・両別院御遠忌から新たなる一步を踏み出す

- 真の朋友との値遇を求めて -

2020年4月、新型コロナウイルス感染の脅威による緊急事態宣言発令後、報恩講をはじめ、法事や葬儀など、当たり前としていた寺院活動ができなくなり、お寺や僧侶の本来の役割が問われたことでありました。仏事の疎遠化が急速に進む社会情勢において、大きな危機感を抱かずにはおれません。私たち真宗門徒は、いつの時でも、ご本尊を中心とした生活を依り所とした営みの中で、共によるこび、共に悩む真の朋友との出あいを求め、生きる指針を仏法に聞いてきました。コロナ危機といわれる今こそ、こうした伝統のもとで、お寺を聞法の場に回復するため、教化の基盤となるような具体的な手立てを考えてまいります。

あわせて、今年度は、2019年5月に厳修した教区・両別院御遠忌の総括に「寺院や聞法の場を取り巻く環境は急激に変化し、次世代へ途切れることなく教えを手渡していくためには、御遠忌の厳修によって明らかになった成果や課題を基に、新たな展望を見出し、一步踏み出し、時代社会に相応した歩みを始めなければならない」「我々真宗門徒にとっての危機とは、参拝者の減少や門徒の減少ではない。危機とは、親鸞聖人の教えが伝わらないことにある。寺院が教えをいただく場となり、門徒が本当に真宗門徒と名のれるよう、この度の御遠忌厳修を機に、教区や各組の教化活動がさらに活性化され、すべての寺院において、住職、坊守、寺族、門徒が共に力を合わせ、寺院を聞法の道場にしていくことを願うものである」と記されてあります。また、下記に「御遠忌後の教区教化の方向性」を示唆する文言が挙げられております。

1、御遠忌より見出された課題ならびに提言について（以下：抜粋）

(1) 「継続性のある事業の実施」に関わる課題

『長浜・五村別院離脱問題学習資料集』を発行することにより、別院離脱問題から見出された課題を忘れずに、教区全体で取り組みを続けていかなければならない。

(2) 「寺院活動のさらなる活性化に繋げるため事業の実施」に関わる課題

- ① 推進員養成講座及び「同朋の会」活動の推進
- ② 住職（寺族）及び門徒の意識の向上
- ③ 時代社会のニーズの把握と対応
- ④ 各組及び各寺院の情報交換
- ⑤ 寺院へのサポート支援

(3) 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要に向けて

- ① 僧侶と門徒とが共に「お寺は何のためにあるのか」「お寺はいったい誰のものか」「私たち一人ひとりが真宗門徒になれているのか」を再度確認し、教区及び組の教化活動の実態と課題を踏まえ、教化方針及び組織の見直しをする。
- ② 教団を支える若手の育成を継続的に行うことにより、教区・組だけでなく門徒会、推進員、婦人会活動等の活性化に繋げていく。

(4) 同朋教団の再構築へのビジョン

各寺院での「役員公選」「月例役員会の実施」「同朋会の開設・充実」の取り組みについて実態を把握し、これまでの成果と課題を明確にして、時代に相応した具体策を検討する。

(5) 教区と別院が一体となった取り組み

教区と別院とが連携して開催する事業を見直し、別院が主体となる事業を実施していく。

これらの提言を真摯に受け止めると同時に、教区教化委員会でも「御遠忌後の教区教化の方向性」を探る中で、教化委員会体制を刷新し「循環する教化」を目指し、新たなる一步を踏みだしてまいります。

2、御遠忌後の教区教化の方向性について（今後私たちが取り組むべきビジョンについて）

教区教化委員会「企画室」では、御遠忌実行委員会体制になった2017年度から期を同じくして、今後の教区教化のあり方について協議検討を重ねてまいりました。具体的には「組教化推進協議会」「組教導研修会」で取り組まれたワークショップより課題抽出された内容を整理分析し、改善に向けた方向性を探るとともに、前頁にあげられた御遠忌より出された諸課題を受ける形で、教区の教化委員会体制を抜本的に見直していくことが確認されました。また、昨年度に「寺院の運営・教化等に関するアンケート」を実施し、今、お寺が抱えている課題等を調査分析する上で、**組間・教区との連携と共有を図り「循環する教化」**となるよう、長浜教区の人の手で長浜の教化を担っていく具体的方途をこれから検討していきたいと考えています。

（1）教化委員会体制の見直し

「小委員会制」から「教化本部制」へ変更すべき主たる理由と方向について

【課題改善に向けた新体制に資する要素】

- ① 教化事業の「前年度踏襲型」「事務局依存型」からの脱却を図るとともに、教化委員がより主体的に関わり担っていただける体制を目指す。
- ② 教化委員会の内容を刷新し「循環する教化」をめざし、関係団体の連絡系統の強化を図る。（「知らない化」をなくす）
- ③ 「対象別」（寺族・門徒・青少年等）の縦割りから、「課題別」を基軸としたシステムの再構築をする。
- ④ 「教別一体」を再考すべく、別院を基軸とした教化事業を検討していく。
- ⑤ 「組教化推進協議会」「組教導連絡協議会」（名称変更）にて、教区と組の教化の連携と強化を図る。
- ⑥ 教学研鑽機関の設置に向けた取り組みを進める。

（2）教学研鑽機関の設置について

「長浜教区 共学研修院」

①趣旨と願い

昨年（2019年5月）に厳修された「長浜教区・五村別院・長浜別院宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」を機とし、「真宗門徒たる私たちは、親鸞聖人のみ教をいただく生活が出来ているかどうか」「私たち一人ひとりが、仏の教を聞き開き、立ち上がり、歩む人となっているかどうか」御遠忌総括反省から出されたこれらの問いを、今、改めて私たちが再確認していく中で「僧俗共に学び、新たな一歩を踏み出していきたい」という願いが起こった。

その願いを受け、当教区における課題の一つであった「僧侶（特に若手・新人）の育成」及び、「法話のできる僧侶」「僧侶（伝道者）としての心得」「基礎的な学習」に重点を置き「長浜教区共学研修院」を2020年度に開設する。

②基本理念

聞法・学習・発表の三本柱を基本理念に据え、集中的に学び、かつ共同学習を可能にしうる基礎的な学習を深める教学研鑽の場とする。具体的には「講義」「座談」「演習」「法話実習」を通して僧侶としての基本姿勢を養う。また親鸞聖人の念仏のみ教に聞き歩む「人の誕生」に主眼に置き、長浜教区の「学び舎」（コミュニティ）として、共に学ぶ「御同朋御同行」の精神を永く継続されることを願う。

（3）長浜・五村別院離脱問題にかかる学習について

①趣旨と願い

私たちは、長浜・五村両別院離脱問題から問われた「寺は誰のものか」「寺は何のためにあるのか」「私たちは真宗門徒になりきれているか」それらの課題を通して「寺を開く」というテーマのもと学び歩んできた。しかしながら、40年経った今、離脱問題を知らない世代が増え、課題が希薄化してくる中で、お寺が誰のものにもなっていない時代になってきているのではないかと。また「過去の事件」「歴史的対象」ということで止まるのではなく、御遠忌厳修を経て、改めて私たちがこの離脱問題を学び直し、長浜教区の自己研鑽の原点を確かめていくことに主眼を置き学んで行く。

②具体的な学びについて

離脱問題に関する「出来事の認知」と「課題の共有」を第一義とした学びの場を開くにあたり、「視聴覚教材」（DVD 媒体）による学習を本年度より実施していくことが確認されている。まずは、各組の「組門徒会研修会」で離脱問題の学びを展開していく。

(4) 部落差別問題協議会の設置について

①協議会設置にかかる趣旨について

これまで当教区では長年に亘り「部落差別問題」に特化して「月例部落差別問題学習会」「組部落差別問題学習会」を継続的に開催し学習研鑽してきた。しかしながら、「部落差別問題でなく人権問題として幅広く差別にかかる学びができないか」「何故、お寺（大谷派）で部落差別問題を学ぶのか」など、部落差別問題の学習が広がらず深まらないという課題や問題点が出出してきた。また「部落差別問題」という名称で研修会を開催することに苦慮されることも多々聞こえてくる。

その中で、全国的にも「部落差別問題」に特化し^{ひとごと}ブレずに学んできた長浜教区では、「事実を事実として正しく学び、人と触れ合い、人を通して学んでいく」といった部落差別問題の原点に立ち返り、先にあげられた課題を真摯に受け止め、部落差別問題が他人事ではなく、自らの問題として受け止め学び場となるよう「協議会」体制にて再出発を図る。また、「ハンセン病問題」「女性問題」等、諸差別に学んでゆく。

(5) 帰敬式実践運動推進計画について

長浜教区は、真宗本廟（東本願寺）が地理的に近いため、真宗本廟での帰敬式受式がしやすく、また、寺院の密集度が高く、門徒と寺院（寺族）との距離が近い環境であり、真宗の教えに根ざした生活がある。これは、2019年度に教区内全寺院を対象に教区独自で実施したアンケートに、帰敬式の執行場所として、教区内約7割の寺院が「真宗本廟での帰敬式が一番相応しい」、「門徒に対して帰敬式の受式を勧めている」と回答していることにも表われている。このことは、帰敬式の執行を単なる寺院教化にとって有効な「手段」や「方法」と考えているのではなく、真宗門徒の名のりとして「本派に帰依の誠を表す」大切な儀式であるとの認識を持っている寺院が、大半であるとの現れである。

この結果から、教区内における今後の帰敬式の推進計画については、住職門徒が帰依三宝の意味を確かめることを基本とし、真宗本廟での受式を積極的に奨励していくと同時に、組に対しても、組での本山報恩講団体参拝での帰敬式を奨励していく。あわせて、現在計画中の「親子で受式する帰敬式法座」（2019～）の取り組みより、次の世代の子や孫を縁として、親御さん、祖父母も一緒に講座を受式いただき、帰依三宝の意義と仏事の大切さを学ぶ取り組みを、教区・組・寺院で展開していく中で帰敬式受式を押し進めていきたい。

3、2020年度の重点項目

- (1) 教区教化委員会「教学教化部門」に**教学研鑽機関「長浜教区 共学研修院」**を設置し、人材育成を目指し、長浜教区の「学び舎」として出発する。
- (2) 『長浜・五村別院離脱問題』にかかる学習を各組（組門徒会研修会）にて実施する。
- (3) 組部落差別問題研修会では、新たなる「趣旨文」に則った学びの再出発を試みる。
- (4) 今年度より「第5次 同朋の会推進講座」を開始する。
- (5) これまでの課題を踏まえ「指定同朋の会サポート事業」の再出発を図る。